

エコアクション21

環境経営レポート

2023年4月～2024年3月



富士アルミ管工業(株)

作成日:2024年 7月1日

2023V07

<http://www.fujialumi.co.jp>

★★ 目 次 ★★

【報告内容】	頁
1.環境経営方針	2
2.事業概要	3
3.環境経営目標	4
4.環境管理体制(組織図)	5
5.環境活動計画	6
6.主な活動内容(1,2)	7
7.実績評価及び次年度の取組内容	9
8.環境法規への遵守状況	11
9.全体的評価と見直し	12

環境経営方針

当社は、企業として地域の発展に貢献するとともに環境の維持向上に配慮した事業活動を行うべく、以下の環境経営方針を制定する。

1. 環境関連の法規制及び当社が同意した、その他の要求事項を遵守する。



2. 企業活動すべての段階で省資源・省エネルギー・リサイクルを考慮し、廃棄物の削減に取り組む。



3. 化学物質の管理を徹底し、大気（CO2 含む）・排水等環境汚染の予防に努める。



4. 環境経営目標・環境経営計画を定め継続的改善を行う。



5. 環境経営方針を全員に周知させると共に、環境教育を通して意識の向上に努める。



6. 取引先及び地域と環境に関する情報交換を継続的に行う。



7. 環境に配慮した製品作りに取り組む。



8. グリーン購入の推進を図る。



2023年 6月 30日

富士アルミ管工業株式会社

代表取締役社長 熱海 広



事業概要



1.事業所の名称及び代表者名

富士アルミ管工業株式会社
三芳工場(認証登録対象事業所)
山形工場(ISO14001取得)
代表取締役社長 熱海 広

2.事業所の所在地

三芳工場 埼玉県入間郡三芳町北永井822
TEL:049-258-3896

3.事業内容

アルミニウム引抜管の製造販売・OA機器部品(アルミスリーブ)の切削加工
(認証登録範囲)

4.環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者:熱海 広(工場長兼任)
環境推進事務局:保谷政明(品証兼環境担当)

連絡先 :TEL 049-258-3896
:FAX 049-259-8324

5.事業規模

※3月末時点の従業員数です。(役員除く)

	三芳工場
敷地面積	6,727m ²
従業員数	31名
主要製品生産量	2023年度: 379 t(13, 164kpcs)

6.対象範囲

認証登録対象組織
三芳工場(所在地は上記に記載)

認証登録対象活動
登録対象組織で行う事業活動
(アルミニウム引抜管の製造販売・OA機器部品[アルミスリーブ]の切削加工)

環境経営目標

当社が制定した「環境方針」及び「環境への負荷状況」を基に、以下に示す環境負荷削減目標を掲げ、環境改善活動を行う。

環境活動計画の進捗状況の確認・評価を毎月の環境委員会で行う。

全ての従業員がエコ21の活動に積極的に参加するよう、従業員に対する教育を行う。

中期目標(2021年度～2025年度)

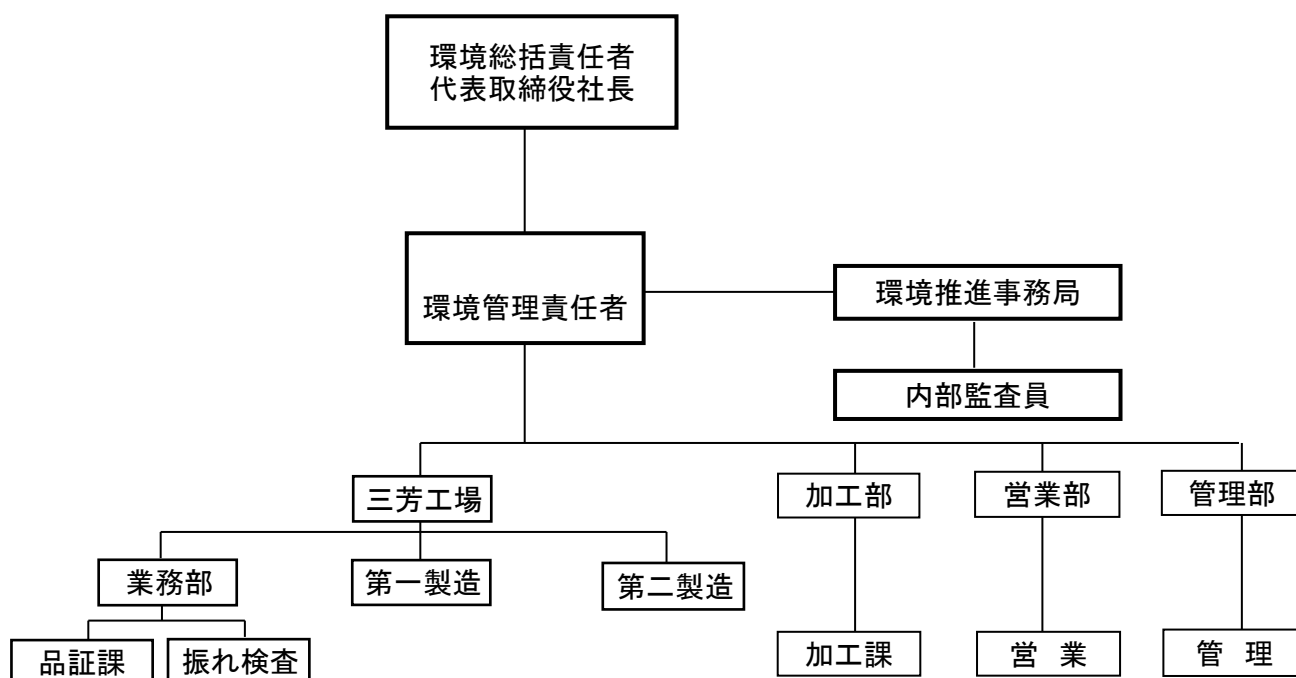
基準年:2020年度

項 目	目 標
電力使用量の削減	基準年を100%として2025年度までに9.0%削減
水使用量の削減	基準年を100%として2025年度までに9.0%削減
廃棄物の削減	基準年を100%として2025年度までに9.0%削減
二酸化炭素排出量の削減	基準年を100%として2025年度までに9.0%削減
化学物質使用量の管理及び調査	最新版による適正管理、含有化学物質不適合0件
グリーン購入の推進	環境に配慮した事務用品を積極的に購入・検討
製品における環境配慮	歩留り改善による環境負荷の低減

期間目標(2023年度)

項 目	目 標
電力使用量の削減	前年度を100%として2023年度に0.5%削減
水使用量の削減	前年度を100%として2023年度に0.5%削減
廃棄物の削減	前年度を100%として2023年度に0.5%削減
二酸化炭素排出量の削減	前年度を100%として2023年度に0.5%削減
化学物質使用量の管理及び調査	最新版による適正管理、含有化学物質不適合0件
グリーン購入の推進	環境に配慮した事務用品を積極的に購入・検討
製品及びサービスにおける環境配慮	歩留り改善・環境に配慮した原材料の使用

環境管理組織図及び実施体制



【実施体制】

担当者	役割、責任及び権限
環境総括責任者	・環境経営方針の策定 ・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 ・EA21及び製品含有化学物質管理の各活動計画を実行するための責任者の役割、責任権限を明確に定め構築した体制を全員に周知する。 ・実施体制において環境管理責任者を任命しEA21及びグリーン調達の要求事項を満たし継続的な維持管理の状況報告を受け必要な改善指示をし、諸問題を把握する。
環境管理責任者	・EA21及びグリーン調達の要求事項を満たす環境経営システムを構築・運用し、その状況を代表者に報告する。 ・環境経営活動目標及び計画の策定 ・是正、予防処置の推進と管理
環境推進事務局	・環境保全活動の計画提案と推進及び改善の提言 ・関連官公庁、団体より環境関連法規・条例・その他規制の最新情報を入手 ・環境管理文書(手順)作成と管理及び教育訓練
環境推進グループリーダー	・環境活動の推進及び活動計画の具体的実施項目の進捗管理 ・グループ内作業員への周知徹底と問題点の吸い上げ ・グループの月別データ収集 ・毎月の委員会で状況報告(進捗・諸問題など)

環境経営活動計画

2023年4月～2024年3月

活 動 項 目	計 画 内 容
1. 電気使用量の削減	①歩留向上による製造設備の効率稼働 ②乾燥処理とひずみ取り処理の連続化の継続 ③電気炉の運転方法の見直し ④デマンド監視システムによる最大電力の抑制 ⑤省エネ機器の導入検討 ⑥製造現場天井照明の節電、資材置き場の節電
2. 油類等(ガソリン、灯油、ガス)使用量の削減	①使用済み油類の再利用継続 (1)蒸留再生機による、洗浄用灯油の再利用 (2)引抜き加工用潤滑油濾過による再利用(第二工場) ②油類使用の削減 ・エコドライブ・アイドリングストップの徹底 ・抽伸機のバックベンチの清掃による抽伸油の再利用 ・抽伸油の交換頻度の見直し(10号抽伸機)
3. 水使用量の削減	①節水コマの継続使用 ②チェックシートによる水漏れチェック強化(元メータのパイロット確認)
4. 廃棄物の削減及び管理	①発生する廃棄物量の削減対策 ・素管梱包資材の返却 ・廃棄物の再利用(場内移動用のビニールシート) ・歩留向上によるスクラップの削減(各現場) ②廃棄物の分別の徹底、エコキャップ:ペットボトルの蓋(ワクチン費用の一部に) ③紙を使わない情報の伝達の促進 ④印刷枚数の削減(FAXの選択印刷等) ⑤処分場の状況確認
5. 二酸化炭素排出量の削減	①主な環境活動計画(項目の1)による削減 ②ガソリン使用量の削減(営業の客先訪問を電車に変更)
6. 有害物質の管理・削減	①購入品の有害物質含有の監視、使用量削減 ②化学物質関連調査、SDSの入手 ③法規制の及び客先グリーン調達基準の最新版管理
7. グリーン購入 環境に配慮した製品(エコ商品)購入の推進	①なるべくエコ対象商品を購入する。
8. 環境活動の周知と客先の情報収集	①環境ニュースの毎月発行 ②客先等の活動情報収集
9. 経費の見直し、原価改善	材料、梱包材等の経費の見直しによる原価改善
10. 営業活動	①新規品の受注、②訪問件数の目標を立てて活動

改善活動及び継続的活動

1 今年度の新改善、新活動

- ダイス・プラグの清掃・整理及び一覧表作成
- 全抽伸機のロッド棒の清掃(管内部汚れ対策)
- 第一工場矯正機ワーク台の清掃
- モーター監視モニター取付(10号抽伸機仕上げ用モーター);6月
- 第一パテーション振れ検査室のレイアウト変更;6月
作業者の足元の安全確保と作業効率UPが目的
- D社向け圧入機改善:管内の異物除去の為、エアブロー設置。
- ハンドフォークのタイヤ交換:劣化で振動が大きくなっていた為。
- 第三工場外観検工程:エアブロー設置
- 消防設備関係改善・・次ページ参照

2 継続的实施(一部)

- K社向け製品の加工及び外観検査不良率低減 素材の不良による外観検査NGが多い

	前年度	今年度	結果			前年度	今年度	結果
加工	0.37%	0.20%	-0.17%	外観不良内訳	素材	0.06%	0.23%	+0.17%
外観	0.15%	0.27%	+0.12%		加工	0.09%	0.04%	-0.05%

改善内容:①エアブローのプログラム変更、②コレットチャックの研磨等。

- 廃油の有価売却
- 素管梱包資材(ビニール・緩衝材等)の返却
- Y社向け段ボールのリユースによる廃棄物の削減
- 毎月環境ニュースを発行・掲示、グリーン調達関連最新版管理
- 抽伸油の濾過・再利用(今年度は80リットル、28千円分再利用しました)
- アルミスクラップ、ラップ・段ボール・ビニール等のリサイクル
- 水道元メーターのチェック(パイロットの確認含む)
- 営業が客先訪問の際、運賃・高速代及びガソリン代等を考慮し、経費の掛からない方を選択しています。
- 含有化学物質調査対応(ChemSHERPAによる回答含む)
- 客先のグリーン調達基準等の改訂情報の関係先への周知と調査

●産業廃棄物処分

2023年6月14日 産廃を阿部商事にて引取り。



処分前



処分後

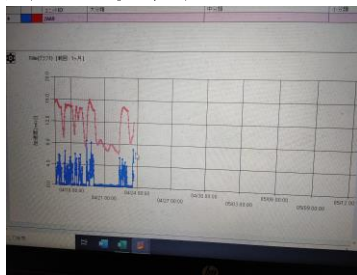
●第三工場2階更衣室前の片付けと電灯分電盤への通路確保(2024年2月)



電灯分電盤

今迄は、保管物が多く分電盤への通路が確保出来ていませんでした。
不要物を廃棄し、分電盤への通路を確保致しました。
通路には物を置かない様、テープを貼りました。

●モーター監視装置の取り付け(2023年6月)



モーター監視装置を取付け
【加速度】【温度】をパソコンの
画面で見られる様になった。

●消防設備改善

・工場内の避難口誘導灯移動及び追加設置(2024年3月)



緊急時に避難が円滑に
行われるよう、避難口誘
導灯を設置しました。
14ヶ所(内2ヶ所は移動)

・第三工場の門側シャッターに水圧開放装置設置【2024年3月】



第三工場の東側シャッターに
【水圧開放装置】を取付け、火災時に
消防のホースの水圧でシャッターが
開放する様にしました。

環境活動実績評価(1)

2023年4月から2024年3月の環境目標に対する取組結果の評価は、以下のとおりです。

評価基準 ○⇒評価達成(5.0%以上)、△⇒達成不十分(増加0～5.0%未満)、×⇒未達成(増加)
 原単位に関しては○⇒目標以下、△⇒達成不十分(増加0～5.0%未満)、×⇒未達成(増加5%以上)

削減項目	単位	基準量(*1)	目標削減率 %	目標	実績	削減量	削減率 %	評価 実数/原単位
電力使用量	千kwh	792.0	18.1%	648.6	578.2	213.8	27.0%	○/X
水使用量	m ³	720.0	26.8%	527.0	492.0	228.0	31.7%	○/X
廃棄物排出量	t	156.0	39.3%	94.7	79.4	76.6	49.1%	○/X
CO2排出量(*2)	t-CO ₂	440.0	13.3%	381.5	338.3	101.7	23.1%	○/X

(*1)基準は2020年度の実績。但しCO2は基準年度の数値とする。

目標は基準量(基準年度実績)に対し前年度の実績の0.5%減

(*2)CO₂排出係数 ミツウロコグリーンエネルギー 0.393kg-CO₂/kwh

2020年度の実績を2020年度の排出係数に換算

【評価のコメント】

・電力使用量:

目標の18.1%を大きく上回り、27.0%削減された。但し今年度は生産数量が基準年度に比べ25.2%程少なく、原単位では達成できませんでした。

原単位目標3.68 千kwh/10万本、実績は4.4 千 kwh/10万本 **原単位未達成**

・水使用量:

目標の26.8%を大きく上回り、31.7%削減された。

原単位目標2.99 t/10万本、実績は3.7 t/10万本 **原単位未達成**

・廃棄物排出量:

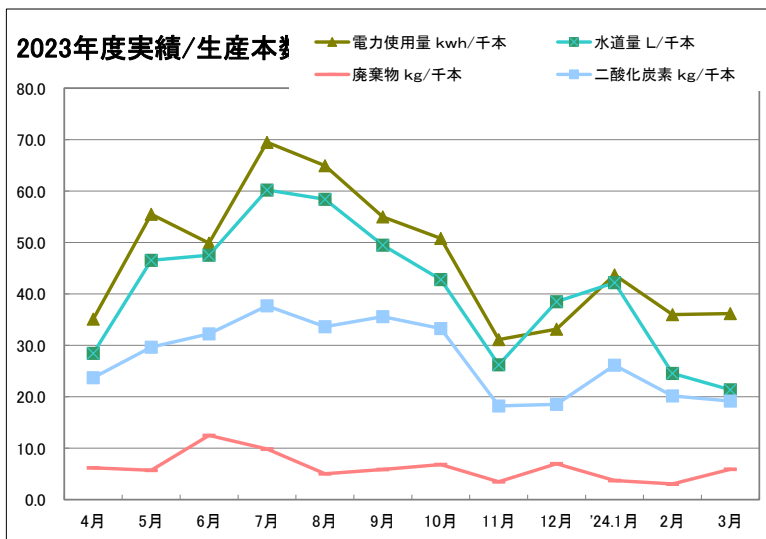
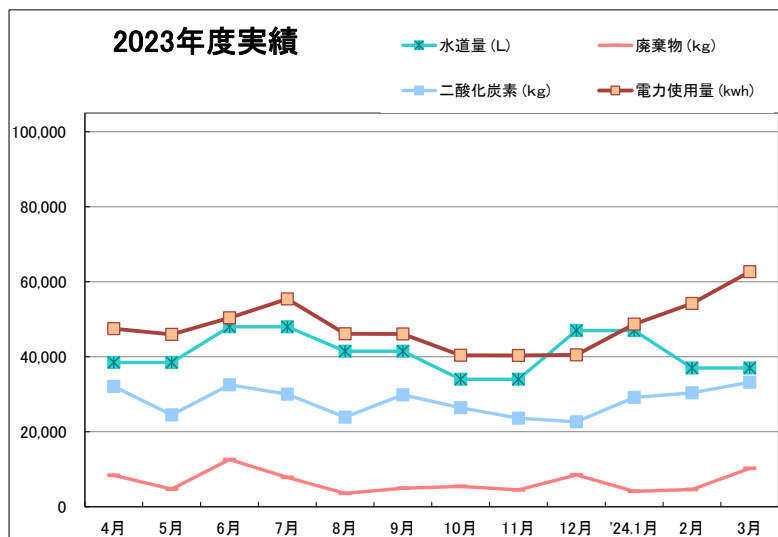
目標の39.3%を上回り、49.1%削減された。

原単位目標0.54 t/10万本、実績は0.6 t/10万本 **原単位未達成**

・二酸化炭素排出量:

目標の13.3%を大きく上回り、23.1%削減された。

原単位目標2.16 t/10万本、実績は2.6 t/10万本 **原単位未達成**



実績評価及び次年度の取組内容

○:目標達成,×:目標未達,△:活動中

長期計画の基準年を2020年とした。

環境活動計画	取組結果と評価(2023年4月から2024年3月)			
	環境目標	実績	評価	次年度の取組内容
1.電力使用量の削減:昨年度の実績に対し0.5%年間目標使用量:648.6×千kwh ①歩留向上による製造設備の効率稼働 ②乾燥処理とひずみ取り処理の連続化の継続 ③電気炉の運転方法の見直し ④デマンド監視システムによる最大電力の抑制 ⑤省エネ機器の導入検討 ⑥工場天井照明の節電:第一(日勤時;40%夜勤時;50%)倉庫(通常;50%)	0.5%削減	27.0%削減 578.2千kwh/年 各現場で取り組む 継続実施 継続実施 継続実施 ピーク電力の削減 343kw→334kw 蛍光灯のLED化計画 電力量の削減 一時中断 第一(日勤時;30%、夜勤時;30%) 倉庫;70%	○ ○ ○ ○ — △ ○	前年度+0.5%削減 継続実施(各現場で) 継続実施 継続実施 継続実施 継続検討 継続実施 継続実施
2.油類等(ガソリン、燃焼用灯油、ガス)使用量の削減 ①使用済み油類の再利用 (1)洗浄用灯油 (2)引抜き加工用潤滑油 ②油類使用の削減 (1)エコドライブ・アイドリングストップの徹底 (2)第一;抽伸機のバックベンチ清掃(4①に詳細)	継続実施	継続実施 蒸留再生器 濾過して再利用 エコドライブ バックベンチ清掃	○ ○ ○ ○ ○	継続実施 継続実施 継続実施 継続実施 継続実施
3.水使用量の削減:基準:昨年度実績に対し0.5%年間目標使用量:527トン ②節水コマの継続使用 ③チェックシートによる水漏れチェック ④その他の節水対策の検討	0.5%削減	31.7%削減 492トン/年 継続実施 継続実施 継続実施 三芳:元バルブ調整	○ ○ ○ ○	前年度+0.5%削減 継続実施 継続実施 継続実施
4.廃棄物の削減・管理:昨年度実績に対し0.5%年間目標使用量:94.7トン ①発生する廃棄物量の削減対策 ・素管梱包資材の返却 ・産廃からリサイクルへ ・廃棄物の再利用(油類、軍手) 場内移動用のビニールの再利用追加 ・バックベンチ清掃及び抽伸油再利用 清掃により抽伸油の再利用が可能となった。 ②廃棄物の分別の徹底(エコキャップ追加) ③印刷枚数の削減(FAXの選択印刷等) ④最終処分場の確認(優良業者の為情報収集にて確認)	0.5%削減	49.1%削減 79.4トン/年 継続実施 継続実施 ビニール等の返却 廃油の有価買取 継続実施 継続実施 ビニールの再利用 継続実施 抽伸油の再利用 ドラム缶1本分 金額で、108千円の節約となった。 継続実施 継続実施 廃油 (株)太陽油化実施	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	前年度+0.5%削減 継続実施 継続実施 継続実施 継続実施 継続実施 継続実施 ・歩留向上による不良率の改善 継続実施 継続実施 継続実施 実施予定
5.CO2排出量の削減:基準年度に対し0.5%年間目標使用量:381.5トン ①主な環境活動計画(項目1)による削減	0.5%削減	23.1%削減 338.3t/年 継続実施 1の削減による	○	前年度+0.5%削減 継続実施
6.有害物質の管理・使用量削減及び調査 法規制の確認含む。含有化学物質不適合 ①購入品の有害物質含有の監視 ②化学物質関連調査 ③SDSの入手	継続実施 不適合0件 継続実施 継続実施 継続実施	継続実施 不適合0件 問題無し 問題無し 継続実施	○ ○ ○ ○ ○	継続実施 継続実施 継続実施 継続実施 継続実施
7.グリーン購入 ・環境に配慮した製品(エコ商品)購入の推進	継続実施	事務用品購入額の 47.7%	○	継続実施
8.環境活動の周知と客先の活動情報収集 ①各チームの毎月実績を従業員に周知 ②客先等の活動情報収集	継続実施 継続実施 継続実施	継続実施 環境ニュースの発行 調査実施	○ ○ ○	継続実施 継続実施 継続実施
9.BCP体制の構築の為の調査	情報収集継続	情報収集	○	情報収集継続

*2021年度の計画はミツウロコグリーンエネルギーの2020年度の調整後排出係数を使用 中期計画変更
0.393kg-CO2/kwh

追記:P4の目標7番目の実績は上の表の4項目;歩留まり向上による廃棄物の削減、6項目;①、②及び7項目;環境に配慮した製品(エコ商品)の購入の該当致します。

次年度目標は今年度の実績の基準年度よりの削減率+0.5%とする。(基準年度との比較を容易にする為。)

環境法規への遵守状況

活動を行うに当たって関連する環境法規と取り組み状況を下表に示します。

関連法規	対象	届出、規制等	遵守状況
1.大気汚染防止法	ばい煙発生施設	●設置、変更の届出 ●ばい煙等の排出規制 ●煤煙発生作業無し	○
2.下水道法	特定施設無し	●BOD、浮遊物質等量の排出規制	○
3.廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃油等。但し廃油は有価物処理	●産業廃棄物の運搬、処分の委託に関する基準(マニフェスト管理)	○
		●前年度分の産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出(6/30迄):4/19提出済み	○
		●最終処分場における廃棄物処理確認(努力義務)優良業者に付き公開情報の入手	○
4.騒音規制法	コンプレッサー	●設置、変更、廃止の届出 ●自主測定は来年度実施予定	○
5.振動規制法	コンプレッサー	●設置、変更、廃止の届出 ●敷地境界位置による振動測定	○
6.消防法	少量危険物第4類	●貯蔵所、取扱い所等の設置、変更の届出 ●消防設備の設置 ●危険物の指定数量の管理 ●防火管理者の届け出:50人未満の為不要	○
7.PRTR法(化管法第5条)及び埼玉県生活環境保全条例	灯油に含まれるキシレンとトリメチルベンゼン	●化学物質の適正管理(環境汚染の防止)(化学物質の移動量・排出量等の把握) ●特定化学物質取扱量の報告:5/10提出済み	○

関連法規制等の遵守状況の評価の結果、法規制の逸脱は過去3年間ありません。

また関係機関からの指摘および利害関係者からの苦情、訴訟は、過去3年間ありませんでした。

全体的評価と見直し

環境管理責任者のレビュー

病氣にて退職し、不在の為省略

環境総括責任者のレビュー

本年も従業員が体調の異変を感じた場合には早急に総務と情報交換し、対応して参りましたが、結果的にはコロナの社内感染はありませんでした。残念ながら、夏の時期に客先需要が減少し人員整理をせざるを得ない状況となってしまいました。技術、安全面に支障を来すこと無く、余剰フォークリフトなど設備の縮小などで乗り越えることができました。今期は消防署からの避難口誘導設備等の改善指示があり出費がありました。又、最近では、ゲリラ豪雨に伴い近隣よりの雨水流入から「在来植物の生育に影響が出る可能性がある」ナガミヒナゲシが敷地内で見受けられるようになり、毒性があることから環境整備に留意しております。